

特集 認知症って？ ～認知症について正しく知る～

認知症疾患医療センターの役割

つがる総合病院は県の委託を受け、西北五地域の認知症疾患医療センターの役割を担っています。主な役割は①認知症の診断、治療に関する専門的医療を提供すること、②医療と介護の連携を強化することですが、加齢によるもの忘れなのか認知症のもの忘れなのか迷った際など、お気軽に受診して頂ければと思います。

認知症とは

認知症とは加齢によるもの忘れとは明らかに違うもの忘れ、理解力、判断力低下など認知機能低下のために日常生活に支障をきたす状態のことであり、原因はアルツハイマー病、脳梗塞脳出血、レビー小体型認知症が多いです。それ以外の病気であったり、原因不明のこともあります。加齢に伴い発症する病気であることがほとんどです。

認知症は「治る」病気ではありませんが、適切な治療、援助、介護をすることで、その方が心穏やかに過ごし進行を遅らせることもできます。

介護する方

認知症の方にとって重要なのは治療と介護であり、車の両輪ですが、介護者に心の余裕がなければ、結果として優しい対応はできません。デイサービス、ショートステイなどを利用し、介護者自身のご自分のため

地域で支える

認知症になり早急に施設入所をしなければならなくなるほど、早く進行することは減多にありません。多くの方は住み慣れた家、地域で生活を続けていますが、高齢化社会に伴い、認知症の方は増えると思われま

す。認知症の方を家族や専門の介護職員のみではなく、地域全体で見守ることが必要になると思われま



つがる西北五広域連合 つがる総合病院
精神科 科長 坂本 卓子 先生

そのためには早期発見が必要です。認知症では食事をしたこと自体を忘れるなど、体験全てを忘れてしま

いの時間を持つようにして頂ければと思います。また、周囲の方も、介護者が介護を離れて外出したりすることを快く勧め、介護者が自分の楽しみのために外出することに罪悪感を持たないようにすることが大切です。

がいたら、話しかけてみることから始めてはいかがでしょうか。また、認知症に関する催しやテレビ番組などをご覧になり、興味や関心を持って知識や理解を深めて頂ければ、認知症の方、ご家族、地域の方皆さんが安心して生活できる社会になるのではないかと思います。

家族がつくった「認知症」早期発見のめやす

●もの忘れがひどい

- 1 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる
- 2 同じことを何度も言う・問う・する
- 3 しまい忘れ置き忘れが増え、いつも探し物をしている
- 4 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う

●判断・理解力が衰える

- 5 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- 6 新しいことが覚えられない
- 7 話のつじつまが合わない
- 8 テレビ番組の内容が理解できなくなった

●時間・場所がわからない

- 9 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 10 慣れた道でも迷うことがある

●人柄が変わる

- 11 ささいなことで怒りっぽくなった

- 12 周りへの気づかいがなくなり頑固になった
- 13 自分の失敗を人のせいにする
- 14 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた

●不安感が強い

- 15 ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- 16 外出時、持ち物を何度も確かめる
- 17 「頭が変になった」と本人が訴える

●意欲がなくなる

- 18 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった
- 19 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- 20 ふさぎ込んで何をするのも億劫がりいやがる

公益社団法人 認知症の人と家族の会

*日常の暮らしの中で、認知症ではないかと思われる言動を「家族の会」の会員の経験からまとめたものです。医学的な診断基準ではありませんが、暮らしの中での目安として参考にしてください。いくつか思い当たることがあれば、念のため専門家に相談してみることがよいでしょう。